

公益社団法人砥粒加工学会 関西地区部会報告

令和三年度 第2回運営委員会 & 第3回研究会を終えて

～ホテルメルパルク岡山(岡山県岡山市)～

1. はじめに

令和3(2021)年12月15日(水)に、令和三年度関西地区部会の運営委員会および第3回研究会が、ホテルメルパルク岡山(岡山県岡山市)において、開催されました。COVID-19の蔓延によるオンライン開催への転換からほぼ2年ぶりに対面方式で実施され、参加者一同の喜びにあふれるものとなりました。以下に、その概要を報告します。



広島大学 山根八洲男 先生

2. 第2回運営委員会

大橋一仁関西地区部会長(岡山大学)の挨拶を皮切りに、令和三年度第2回運営委員会が定刻に開始されました。続いて、地区部会・榎本俊之庶務幹事から2021年度の事業報告がなされました。あわせて、本年度の砥粒加工学会学術講演会(ABTEC2021)が地区部会運営委員を中心とした実行委員で実施され、成功裏に収められたことから、ねぎらいの言葉を頂戴いたしました。次に、松本有司会計幹事(関西大学)から2022年度の予算案提示がありました。さらに、運営委員会名簿の確認を兼ねて、出席した委員の簡単な自己紹介を経て、最後に、企画グループごとに2022年度の事業計画を話し合い、予定通りに終了しました。



香川県漆芸研究所 辻 孝史 先生

3. 第3回研究会

第2回運営委員会の終了後、第3回研究会を開始しました。本研究会は「歴史と伝統に学ぶ高度な加工技術と若手研究者による研究報告」を統一テーマとして、2部構成の講演会として開催されました。コロナ感染対策のために座席間を広く取ったこともあり、36名の参加者となりました。

第1部では、広島大学名誉教授・山根八洲男先生より「孫子の兵法に基づく切削加工の戦略」と題して、ご講演をいただきました。中国の春秋時代の兵法書「孫子」に基づく視点を交えて切削加工の基礎から難削材加工攻略のポイントをご講演いただき、歴史と伝統技術が紐づくことに感嘆させられました。続いて、香川県漆芸研究所・辻孝史先生より「漆芸の研ぎ」と題して、ご講演をいただきました。香川漆芸の三技法と呼ばれる漆器の製作技術から、炭研ぎという加工技術との接点を交えてお話いただきました。さらに、炭研ぎの実演を披露いただき、その繊細さと美しさに参加者の興味と視線が注がれました。

第2部は関西地区部会の若手研究者である6名の講師より研究報告をいただきました。岡山大学・大西孝先生より「円筒ブランチ研削における寸法生成量の推定手法の開発」、大阪大学・杉原達哉先生より「PIVによる切削加工現象の可視化とその応用」、関西大学・古城直道先生より「精密加工を利用した材料内部の微視構造観察」、京都工芸繊維大学・山口桂司先生より「ダイヤモンドの高速固定砥粒研磨の開発」、大阪大学・佐竹うらら先生より「ガラスレンズの高精度研磨技術」、近畿大学・藤本正和より「砥粒切れ刃の摩耗挙動からみる精



会場の様子

密研削における加工特性」と、それぞれ題したご講演をいただきました。各若手講師による幅広い話題提供は、文字通り地区部会の未来を感じさせるものでした。

最後に、地区部会・北嶋弘一監事(関西大学)の挨拶をもって、盛況のうちに閉会となりました。

4. おわりに

本会は、未曾有のコロナ禍の中で、対面形式で開催することができました。約2年ぶりの対面開催ということもあり、盛り上がりとともに名残惜しさもあったのか、全講演が終了した後も参加者間で議論が交わされ、会場を出るまで各位にとって充実の時間となったことが伺えました。貴重な話題と議論の場を提供いただいた講師の皆様へ、心より御礼申し上げます。また、昼食時の黙食やマスクの着用など、感染対策にご協力いただいた参加者の皆様に深く感謝いたします。関西地区部会では、今後も技術交流の場を提供する所存です。引き続きのご支援を、何卒よろしく願いいたします。

(文責:藤本正和)